



【特別支援学校のセンター的機能】

～しろがね特別支援学校による地域支援～

特別支援学校のセンター的機能として、専門アドバイザーが中心となり、前橋市・渋川市・吉岡町・榛東村の小学校・中学校・高等学校・幼稚園・保育園を訪問したり、保護者に来校していただいたりして、発達気になる子ども達についての継続的な支援を行っています。

10月30日現在の相談依頼の件数(外部支援)

対象	幼稚園 保育園	小学校	中学校	高等 学校	特別支援 学校	その他	計
件数	182件	212件	31件	9件	5件	7件	446件

(その他は関係機関からの相談)

専門アドバイザーの仕事を紹介します。



学校や園の先生方から受ける相談の中に、子どもが怒りやすく困るという内容が多く寄せられます。原因としてはいろいろありますが、ここでは幼稚園児と高校生の例のついて、紹介します。

年長児のA君は、頭も良く、とても活発な男の子。「集合」などと言われると、友だちを押しつけて急いで集まってきます。読み聞かせではいつの間にか前の良い席に座っています。普段、朝の用意が早く終わった子どもには、教師がかごを運ぶという手伝いを頼みます。A君はその手伝いをしたいのですが、朝の用意をする前のトイレで時間を取ってしまい、教室に入ったときには早く用意の終わった子どもがお手伝いを始めます。すると悔しくて、「僕がやるんだよ」と割って入ると「A君は、まだ、カバンが出ているでしょ」としっかりした女の子から指摘され、泣いて悔しがります。発表会の練習では聞きづらいほど大きい声を出して台詞を言うため、3人で一緒に言う場面でもA君の声ばかり目立っています。さらに、A君の台詞の出だしが遅くて、他児の台詞の声が自分より目立つと、「〇〇君は違うよ」とその友だちを注意してトラブルが発生します。

先生はトラブルが発生すると、どうして悪いかを説明しますが、なかなか理解されず、毎日同じ事の繰り返しです。

これは幼稚園児に限らず、小学生でも中学生でも、あるいは高校生になっても同じような相談は良く受けます。

まず、友だちとトラブルが発生する前には、トラブルが起きるだろうと予想される小さな出来事があります。そこを見逃し、トラブルが起きてから指導してもA君には通じません。A君の判断基準を考えてみましょう。A君にとって、「早く行動すること」「大きな声を出して台詞を言うこと」「お手伝いをする」が良いことと判断しています。確かに、教師は「早く行動できたね」や「大きな声でお客さんに聞こえるよう台詞を言いましょ」と指導します。さらに、A君が大きな声で歌を歌うと褒めます。A君にしてみたら教師に褒められることは良いことだから、ますます大きな声を出し、素早く行動します。教師が褒めなくても、何も声を掛けないというのは、A君にとっては教師に認められていると判断します。

これは本当に良いことでしょうか。クラスの友だちはA君のことを理解しているので、押しつけられても、特に怒りません。A君が走ってくると、避けます。A君への不満は当然ありますが、A君自身は全く悪いと思っていません。

そこで、以下のように指導を変更してもらいました。

- 走らないで教室移動できた子どもを、読み聞かせの時に前列に指名する。
- 台詞の声の適切な大きさを教え、大きすぎる場合や小さすぎる場合は指摘する。ちょうど良い3人組の役の子ども達を褒め、見本として皆の前で発表させる。
- 手洗いなど、列に並ぶときに同時になってしまったら、友だちに譲れることが良いことだと褒め、特典として、手伝いを頼む。

このようなことを提案しました。皆の前で褒められること、さらに、お手伝いという特典がつくことはどの子どもも喜びます。しかし、その判断基準を正しく教師が教えないと腕力や主張が強い子が得をし、そうでない子が我慢するという構図になってしまいます。

高校生も同じです。頑張ると褒められるので、与えられた課題は一日で行ってしまいます。一週間かかる課題も一日でやってくるため、結局、疲れてその後のいろいろな学習に支障が出てしまいます。疲れが原因で、欠席することもあります。とても真面目な生徒です。頑張ると褒められてきたという経験により、必要以上に頑張ってしまうのです。

では、どうすれば良いか。それは、適切な頑張りの時に褒め、頑張りが過ぎた時には褒めてはいけないということです。計画を立てさせ、少しずつこつこつと行うことが良いことだという判断基準を生徒に植え付けることです。

大人が考える以上に、子どもは褒められると嬉しいものです。だから、何を褒めるか、どんなことを褒めるかをもう一度大人が考える必要があるのかもしれないね。

今年度も理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の同行派遣が始まりました。粗大運動・微細運動・姿勢・力のコントロール・言葉の不明瞭・吃音・置換等気になることがありましたら、障害の有無に関係なくお気軽にご相談ください。

どうぞ、よろしくお願いいたします。

群馬県立しらがね特別支援学校

専門アドバイザー

電話 027-268-6111

FAX 027-268-6113